

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) 地域学校協働活動の取組事例

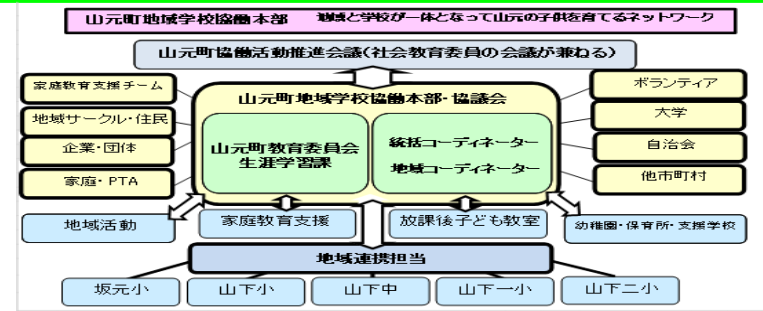
「山元町地域学校協働活動推進事業」(宮城県 山元町)

取組の概要や経緯

「**地域と学校が一体となって山元の子供を育てるネットワーク**」をテーマとして、地域学校協働活動を推進している。

平成30年4月、山元町地域学校協働本部設置要綱、山元町地域学校協働活動コーディネーター設置要綱を施行し、**山元町地域学校協働本部**を設立した。

統括コーディネーター1名、地域コーディネーター3名、生涯学習課が協力・連携しながら事業を推進し、未来を担う子供たちの育成と地域づくりを目指している。



内容

- **地域学校協働本部の整備** ⇒ 山元町協働教育の円滑な推進を図るために、「地域学校協働本部設置要綱」に基づいた協働本部を設置し、これまでの推進組織を基盤としながら、さらなるネットワークの構築を進める。
- **学校支援活動** ⇒ 学校の学習目標を共有しながら、地域と学校を結び目標達成への活動と組織づくりにより、地域人材探しと活用、学校支援活動の充実を進める。
- **家庭教育支援** ⇒ 家庭教育支援講座、家庭教育学級・幼児学級の開催、育児サークルの活動支援、家庭教育支援チームの育成により、家庭教育の重要性の普及啓発、親の学び支援と子育てを支える環境づくりを進める。
- **地域活動** ⇒ 世代間交流、障害者の生涯学習推進、次世代リーダー養成など、あらゆる人が交流し、学び合いながら、豊かな心、社会性、自主自律、自尊感情を育むとともに、地域リーダーの育成を進める。



障害者の生涯学習「こぐまサロン」

ポイント

- ① 連絡会等の開催により、地域の**ボランティアとの連絡を密にする**。
- ② こどもセンター、教育総務課等、**他課室と連携し**情報共有することで事業の推進に役立てる。
- ③ 幅広い**家庭教育支援チームの活動が強み**となり、地域の協働体制が構築できている。
- ④ **生涯学習を通じた人材育成システム**を築くことで、継続した人材育成と確保に努める。

成果

- **学校支援活動** ⇒ 学校の担当が替わっても、地域学校協働本部が組織されていることで、人材探しや活動計画の相談ができる点で**学校の安心感**につながっている。
- **家庭教育支援** ⇒ 家庭教育学級・幼児学級の実施によって、就学前の保護者間及び幼児間の**交流と学びの場**、就学へ向けての**不安解消の場**となっている。既視感があるため、学校関係者等に質問しやすい雰囲気が醸成されている。
- **地域活動** ⇒ 中学1年生から高校3年生までの**ジュニア・リーダーの活躍による育成の場**、**地域住民のコミュニティ形成の場**となっている。

今後の方向性

- 地域学校協働本部や取り巻く環境の整備により、**学校と地域の双方向での学びを進めるとともに、家庭・地域・学校の教育力向上の促進**を図っている。今後は、各学校に整備されつつある**学校運営協議会との連携**を図り、地域学校協働活動を**一体的に進めていく**。
- 学校配置の地域連携担当教員と協働本部の協議及び連携の場を設け、**円滑な連携・協働体制を構築**する。
- 家庭教育支援では、人材発掘と育成を進め、家庭教育学級等での**ファシリテーターとしての力量の向上**を目指し、研修と実践を重ねる。
- 地域活動では、新しい教育振興基本計画の下、**地域の人々が主体的に参加でき、充足感のある事業の在り方**を検討し、実施していく。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) の取組事例

「色麻町地域学校協働活動推進事業」(宮城県色麻町)

取組の概要や経緯

平成17年度から継続している【学校支援】【地域活動支援】【家庭教育支援】の活動を、平成23年度より「協働教育プラットフォーム事業」として実施してきた。

平成29年度より、「地域学校協働活動」として、学校や地域、関係者の連携・協働を強化し、一体的な活動を推進できる体制づくりを目指した。

内容

【学校支援】【地域活動】【家庭教育支援】の各活動分野のコーディネーターと「地域学校協働本部」の企画・調整のもと、各種事業を実施した。

【学校支援】: 米づくり・エゴマ栽培・野菜栽培指導、部活動指導、校外学習随行 など

【地域活動】: サマーキャンプ(野外活動)、こどものまち2021(体験活動)

【家庭教育支援】: 家庭教育広報誌の作成、掲示板での情報提供 など



ポイント

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、縮小となった事業も多いが、昨年度は実施できなかった事業も感染症対策を行いながら、実施することができた。また、コーディネーターを中心に密に連絡・調整を行い、事業の企画運営ができた。

成果

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、例年よりも規模を縮小してではあるが、意見交換や検討を重ね、事業を企画・実施することができた。
- ・コーディネーター間での事業の考え方等の共通理解が深まり、意見交換や企画、検討等を行うことができた。

今後の方向性

- ・今年度の経験を生かし、来年度以降もコロナ禍の中でどのように事業を運営していくのか引き続き検討し、反省を活かしながら事業を企画していく。
- ・コーディネーターと学校(教職員)の意見交換等の場を設け、事業の円滑な運営が行えるよう検討する機会が必要。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域学校協働活動の取組事例

「できることを、できるときに、できるところから、みんなで育もう栗原っ子」(宮城県栗原市)

取組の概要や経緯

- 地域住民による、地域に根ざした伝統芸能や農業を子どもたちが体験することによって、世代間交流とつながりの構築を促す。
- 家庭・地域・学校の連携・協働により、地域の教育力向上を図り、地域の子ども達を育む体制づくりを行う。



内容

【学校支援活動】

地域人材の活用で、体験活動等をより充実したものにする。

【放課後子ども教室】

放課後を利用した簡単なワークショップの開催。

【地域活動】

地域住民やジュニア・リーダーが主体となり、子ども達の体験活動の場を企画・運営する。

【地域未来塾】

教職経験者等による放課後及び夏休み学習会の実施。



成果

地域コーディネーターをはじめ、学校での諸活動に関わる地域住民が地域活動や未来塾にも参加することで、子どもたちがより安心して活動できる環境づくりに繋がっている。

ポイント

- 協働教育推進指定校を設置し、活動を支援することで、重点的に協働教育事業を実施する体制づくりを行った。



今後の方向性

○活動に携わる地域住民が固定化し、さらに高齢化も進んでいるため、新たな地域人材の発掘に向けて、各小中義務教育学校の地域連携担当教員と密に連携する必要がある。

○子どもたちが安心して地域住民と関わる機会をより多く設けるため、家庭、地域、学校の協力を仰ぎながら、地域の子どもを育てる体制づくりを進める。



「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域学校協働活動の取組事例

「地域づくりの手法としての地域学校協働活動」(宮城県大崎市)

取組の概要や経緯

幅広い住民や地域の多様な機関・団体等の参画のもと「地域学校協働活動」の推進を図り、地域全体で未来を担う子ども・青少年を支え、地域の活性化を図る。

放課後
子供教室



家庭教育支援



学校支援活動

内容

- 地域学校協働本部・・・類似組織含め、3つの本部(4小学校・2中学校)の活動を支援
- 学校支援活動・・・コーディネーター配置と保険加入により、安心して活動できる環境を整備
- 放課後子供教室・・・地域の力を生かし、2小学校区で実施
- 地域未来塾・・・夏季に「サマースクール」を、放課後に「放課後学び支援」を中学校を会場に開講
- 地域活動・・・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、世代間交流事業を中止
- 家庭教育支援・・・2つの家庭教育支援チームによる家庭教育講座の開講とアウトリーチ型事業の展開

ポイント

- 【地域特性】 地域の実情に応じた地域学校協働活動の展開
- 【地域の負担】 既存団体を生かし、負担感が增大しないよう配慮
- 【地域づくり】 地域づくりのひとつの手法として位置付け
- 【人材育成】 「地域全体で子どもを育てる機運」とともに、「地域に育ててもらった感覚」を醸成

成果

- 地域学校協働本部の新規設立(2組織→3組織)
- 学校支援ボランティアの回数及び延べ人数の増加(2,667回13,437人→3,121回13,911人)
- 地域未来塾参加者の家庭での学習時間の増加(1:36→2:20)

今後の方向性

- 地域学校協働本部の継続支援と新規設立により、学校・家庭・地域・行政が連携した地域づくりを推進する。
- 新型コロナウイルス感染状況の動向を見ながら、学校支援ボランティアの間口を広げ、児童生徒との関わりが地域住民の生きがいとなるよう支援する。
- 家庭教育に関わる人材育成のための事業を展開し、家庭教育支援チームの強化を図る。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)の取組事例

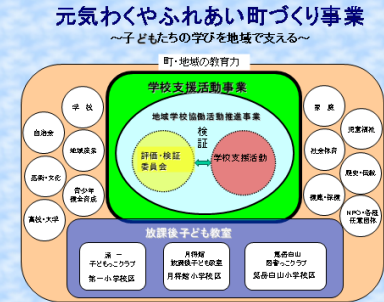
「元氣わくやふれあい町づくり事業」及び「地域未来塾(パワーアップ教室)」(宮城県涌谷町)

取組の概要や経緯

平成22年9月に元氣わくやふれあい町づくりサポートセンターを立ち上げ、学校支援本部事業として開始した。

支援対象は町内全ての小中学校及び幼稚園等まで展開し、学校支援や放課後子ども教室を地域住民と協働し推進している。

地域未来塾においては、学び支援コーディネーター及び学び支援相談員等を配置し、地域と学校をつなぎ、地域住民が参画することを通して、教育活動の充実と学びを核とした地域コミュニティの再生を図る。



内容

元氣わくやふれあい町づくりコーディネーターが、学校や地域ボランティア等と連絡調整を行い、学校や地域の特色を活かした学校支援活動を行っている。

放課後子ども教室では、各小学校において、放課後子ども教室のコーディネーターが中心となり、地域性や学校の特性に合わせた事業を企画し、地域の中から講師を依頼するなど地域人材を積極的に活用し様々な体験学習の機会を提供している。

地域未来塾では、町内の児童(小学校3~6年)及び生徒(中学校1~3年)を対象に、夏季休業中5日、冬季休業中3日の計8日間、3会場で実施。学習指導だけでなく、学習の取り組み方や時間配分について、相談員が助言するようにした。

ポイント

- ①元氣わくやふれあい町づくりコーディネーター会議を毎月実施し、支援内容や支援者の検討を行い、情報を共有する。
- ②放課後子ども教室は、各小学校の地域性や特性を活かした体験型の事業内容を企画。また、地域人材を積極的に活用することで地域との連携・協働の推進と地域コミュニティの活性化を図る。
- ③地域未来塾では、コーディネーターは各会場を回り、児童生徒の様子がよくわかっていく学び支援相談員との連携が図られ、どの地域も一体となった学習支援が受けられる。

成果

学校支援事業においては、新型コロナウイルス感染予防のため2つの小学校で消毒・清掃ボランティアが行われた。また、ミシンや調理実習、習字の授業において、地域のボランティアが支援することで、児童一人一人にサポートすることができた。地域の方が活動することで、地域と学校の自然な交流が推進され、また、居住地域の小学校でボランティア活動することにより、地域コミュニティの活性化も図ることができた。

放課後子ども教室では、新型コロナウイルス感染予防のため、開催回数が少なくなり、また、内容も大きく変更して行われたが、参加児童はたいへん楽しみにしており、地域のスタッフとの交流とともに、地域の中から講師を依頼し絵手紙教室やバルーンアートを体験することで、多世代の交流や地域住民との交流を深めることができていく。

地域未来塾では、宿題に積極的に取り組めただけでなく、それ以上に新たな課題に取り組む児童生徒も見られ、地域で安心して、意欲的に取り組めた。

全体を通して、支援しているスタッフやボランティアなど地域住民の交流や活動の場づくりや生きがいづくりにも大いに役立っている。



今後の方向性

- ・学校支援活動においては、学校内にボランティア室を設置し、地域の方が気軽に集える場の設けることにより、スムーズな支援を学校と連携し行う。
- ・研修会を開催し、これからも継続して活動できるようコーディネーターやボランティアなどの支援者となる地域人材の育成、発掘に努め、また保護者にも参加を促し、協働教育の推進を図る。
- ・家庭教育支援について、幼稚園等に出向き「親の学び」の機会を提供する。
- ・地域未来塾においては、今年度の評価・検証委員会での結果を活かし、年間指導計画を見直しながら、より充実したパワーアップ教室(地域未来塾)を実施する。
- ・『できる支援をできるときに、できることから』を合言葉に地域住民の協力をもらいながら、よりよい協働教育の推進を図る。